

曹洞宗総合研究センター 第20回学術大会 プログラム

開催日 平成30年10月24日(水)～25日(木)

会場 曹洞宗檀信徒会館(東京グランドホテル)

3階 桜の間(第1部会) 蘭の間(第2部会)

大会日程

○10月24日 9時30分より 開会式(桜の間)
10時00分より [午前の部]シンポジウム
13時20分より [午後の部]個人発表

○10月25日 10時00分より[午前の部]個人発表
13時00分より[午後の部]個人発表

<第1日> 10月24日

第1部会 <桜の間>シンポジウム(10時00分～12時00分)

<シンポジウム>「救い」としての梅花流

「夫のお葬式で聴いた御詠歌に癒され興味を持った」「お釈迦さまや両祖さまの教えに触れるきっかけになった」等、お寺の梅花講ではこのような声をよく耳にします。このシンポジウムでは、梅花流が持つ「こころの救済」的側面に焦点を当て、死別悲嘆などをきっかけとして梅花講に入った人々が如何にして心の安定を取り戻し、生き方を構築していくのか、またその過程で「信仰」がどのように関与しているのか、について検討したいと思います。 司会：小嶋弘道

○座談会「梅花流の魅力を語る」(20分)

千葉県海龍寺講詠範 大山セツ子
東京都宗保院講員 大貫武男
神奈川県東泉寺講員 小泉孝子
座談会司会：関水博道

○響きあうこころ～詠讃歌とともに～被災地宮城の梅花講員より～

宮城県宮殿寺副住職 永松隆賢

○梅花講データの分析を通じて

委託研究員 佐藤俊晃

○梅花流詠讃歌の救済的機能について～教化論の視点から～

専任研究員 関水博道

○総括

委託研究員 務臺孝尚

梅花流詠讃歌研究プロジェクト

プロジェクト員：関水博道(専任研究員)、清野宏道(専任研究員)、佐藤俊晃(委託研究員)
務臺孝尚(委託研究員)、小嶋弘道(委託研究員)、松井量孝(委託研究員)

第1部会<桜の間>個人発表

午後の部（13時20分～16時40分）

1. 遠方檀信徒に関する一考察
宗学研究部門研究員 澤城邦生
2. 寺院が抱える過疎問題への対応の方向性について
センター委託研究員 平子泰弘
3. 寺院の合併・解散に関する一考察
センター専任研究員 南原一貴
4. 輪住地における輪番住職の一年—總持寺・最乗寺・大洞院等の事例から
曹洞宗文化財調査委員会主事 伊藤良久
5. 輪番住持の役割について—「最乗寺永高等連署状」を事例として
駒澤大学文学部非常勤講師 遠藤廣昭
6. 天桂伝尊編集『正法眼蔵』存在の可能性
センター専任研究員 清野宏道
7. 龍樹の「空」「無我」思想について—中国における禅浄典籍より
センター専任研究員 宮地清彦
8. 「五百年間出」の語をめぐって—白隠慧鶴評価の変遷
花園大学国際禅学研究所研究員 瀧瀬尚純
9. 大分萬壽寺所蔵『嘉興大蔵経』について
花園大学国際禅学研究所所長 野口善敬
10. 『伝光録』菩提達磨章再考
駒澤大学総長 池田魯參

第2部会 <蘭の間>個人発表

午後の部（13時20分～16時40分）

1. 寺族と僧侶のあいだ
女性と仏教・関東ネットワーク 瀬野美佐
2. 宗門の「平和」が抱える課題—若手宗侶の歴史認識から見えるもの
教化研修部門研修生 西田稔光
3. 仏教伝道と教科書問題
愛知県龍潭寺住職 別府良孝
4. アクセス解析による寺院ウェブサイト運営についての一考察
教化研修部門研修生 本田真大
5. 寺院と地域社会のサステナビリティ—持続可能性から描く未来像
教化研修部門研修生 久保田智照
6. グリーフケアの観点から見る遺品整理—遺族への質的調査から
花園大学准教授 西岡秀爾
7. 祈りの集い—自死者供養の会—について—アンケート結果をもとに
センター専任研究員 久保田永俊
8. 幼児期の人間形成とこども園の仏教行持—花まつりと涅槃会を中心に
育英短期大学教授 佐藤達全

9. 『修証義』「四大綱領」を分りやすく伝えるための教化資料について
センター専任研究員 宇野全智
10. 人権思想へのカタバシス—曹洞宗が擁護推進すべき人権とは何か
曹洞宗人権擁護推進本部嘱託員 工藤英勝

<第2日> 10月25日

第1部会<桜の間>個人発表

午前の部 (10時00分~12時00分)

1. 「夢中説夢」と夏目漱石の「夢十夜」—夢を語るとは何か
東北女子大学教授 佐々木隆
2. 果宝撰『大日経疏抄』における「頓悟法門」をめぐって
駒澤大学仏教経済研究所研究員 千葉 正
3. 智顛前期時代の講説について—『釈禪波羅蜜次第法門』を中心として
愛知学院大学講師 大松久規
4. 長蘆宗躋と「五観偈」—「誠洗麺文」を手がかりとして
センター講師 山本元隆
5. 天童如浄禅師における『宏智録』の受容と展開
宗学研究部門研究員 永井賢隆

午後の部 (13時00分~16時00分)

6. 折本『太祖仏慈講式』について
山梨県大聖院住職 阿部俊正
7. 『瑩山清規』記載の「銀錢」について
センター専任研究員 石原成明
8. 『伝光録』にみる出家の解釈—第四祖と第五祖の章を中心に
駒澤大学大学院修了 下條 正
9. 『洞谷五祖行実』成立年代考—瑩山禅師伝をめぐる諸問題
鶴見大学仏教文化研究所特任研究員 横山龍顯
10. 曹洞宗における十仏名の変遷について
宗学研究部門研究員 秋津秀彰
11. 『正法清規』再考 (二) 一回向文・偈文の特徴
センター講師 尾崎正善
12. 『正法眼蔵』「三昧王三昧」巻における道元禅師の坐禅観について
宗学研究部門特別研究員 清藤久嗣
13. 北越入山をめぐって
宗学研究部門研究員 新井一光
14. 『永平広録』と道元禅師成仏論
センター委託研究員 菅原研州
15. 菅原研州師蔵『扶桑和尚之内抄』末尾付記の「道元禅佛行状」考
愛知学院大学名誉教授 吉田道興

第2部会 <蘭の間>個人発表

午前の部(10時00分～12時00分)

1. 「マインドフルネス」とは何か—マインドフルネスの展開と禅との関連について
教化研修部門研究生 田中仁秀
2. 「朝活禅」開催を通して考える現代坐禅教化の課題と方向性
センター専任研究員 関水博道
3. 食作法ワークショップによる教化の可能性
教化研修部門研修生 深澤亮道
4. 一般初心者への坐禅指導法の考察—リラクゼーション導入について
教化研修部門副主任研究員 小杉瑞穂
5. 坐禅会における質疑応答に関する考察
臨済宗妙心寺派平林寺僧堂教育研究室主任 亀 滋廣

午後の部(13時00分～16時20分)

6. 五祖師戒と泐潭懷澄—『宗門摭英集』に見る師弟の禅
宗学研究部門研究員 角田隆真
7. 宋代禅宗における供養の一様相
センター専任研究員 小早川浩大
8. 曹洞宗における重陽の受容
花園大学国際禅学研究所研究員 館 隆志
9. 建綱と建擲の関係(十二)—寂円派の呼称はいつからか
岩手県正洞寺住職 熊谷忠興
10. 『夢窩梅峰禅師語録』所収「退休寺記」に見る源翁心昭(2)
駒澤大学仏教経済研究所研究員 上野徳親
11. 天桂の坐禅観
センター副所長 志部憲一
12. 吉祥寺旃檀林の出版物について
駒澤大学大学院 中野何必
13. 日泰寺仏舎利考—遠藤龍眠師の在タイ期における活動について
センター専任研究員 古山健一
14. 正信論争考(十四)—木村泰賢博士と宇井伯壽博士(二)
山口県龍昌寺住職 竹林史博
15. 普門従廓と拙庵徳光—阿育王山広利寺と日本仏教の最初の関わり
駒澤大学教授 佐藤秀孝

※プログラムは変更になる場合があります。